

佐々木会員ご令嬢の佐々木敏恵様、ようこそお越し下さいました。

先週の日曜は、関学野球部の学生たちによる野球教室が無事終わり、二宮委員長はじめ参加された会員の皆様、有難うございました。
次年度以後、野球ひじ検診と野球教室が各年度毎に開催されることを期待しております。

先週お話しましたが、野球競技人口は大きく減少しています。
また子供たちの運動能力に関しても 11 歳男児のソフトボール投げの平均が 30 年前と比べると約7メートル短くなるなど野球の基本となる、投げる動作の能力低下が著しくなっております。

今年横浜DeNAベイスターズが野球振興活動「やきゅうみらいアクション」を立ちあげました。

従来の野球教室はもとより、年齢層を低くし幼稚園・保育園への訪問活動を年 100 回とし、より多くの園児に野球やベイスターズと触れ合うことで興味・関心を持ってもらいます。そして本塁ベースの後にバッティングティにボールを乗せ、止まったボールを打つ野球競技の一つである「ティーボール」を球団が独自にルールを変更し、「BT ボール」として新たな競技を作り、園児たちが打つ・投げる・捕るといった基本動作を気軽に味わい楽しんでいただける大会を実施しています。

また小学校体育授業でも、横浜市内では選手OBが訪問し、低学年対象に「ティーボール」などを実践し、小さいころに野球の楽しさを感じてもらい、野球をするきっかけづくりを目的としています。このような試みは、横浜だけでなく全球団統一していけばいいと思うのですが…。

高野連も数年前から選抜大会、夏の甲子園大会にバックネット裏に「ドリームシート」と呼ばれる席に甲子園での活躍を夢見ながら頑張っている子供たちを招待しています。すぐ近くでの観戦は迫力満点で野球の楽しさを感じるし、全国から集まった高校生が全力でプレーする姿を見て様々なことを感じ、子供たちが成長し、夢をかなえられればと思います。

また大阪市内スポーツメーカー21 社が「球活委員会」を立ち上げ、子供の野球離れに待ったということで、当たってもけがをしないボールなどの野球用具の普及、父親のためのキャッチボール口座や指導者講習の開催などで、すぐに結果が出るとは考えられませんが、地道な活動で野球の素晴らしさを子供たちに広めていただければ願っています。

また本日の卓話は、継続事業・支援事業です。今後それらを発展させるためには、過去のこと、スタート時のことを学びたいと思いますので宜しくお願いします。